

# いついとも早く本格的な災害復旧工事を 地元住民が市議会総務委、建設企業委の視察メンバーに訴える

市議会の総務常任委員会と建設企業常任委員会が20日、一緒になって市内の長野県北部地震被災地を視察しました。私が所属する総務常任委員会の被災地視察は今回で2度目です。今回は大島区、安塚区、清里区で道路や住家などの被害状況を見てきました。

大島区では先月28日未明、融雪などに伴い発生した菖蒲地内の山地崩落の現場、住家の被害状況を視察しました。崩落現場は応急措置としての工事が終わっているものの、崩落したところに用水路があることなどから早急な復旧が望まれます。

住家については、4月28日から5月13日にかけて2次調査が行われています。その結果、一部損壊から全壊に変更したものの1件、一部損壊から大規模半壊に変更したものの1件、一部損



壊から半壊に変更したものの12件、新規に判明（半壊）1件という報告が17日にありました。大雪の中での地震でしたので、雪解けとともに被害の深刻さが明らかになってきました。

した。

大島区菖蒲では、地元町内会長などから、「菖蒲高原のベルハウスはキューピット並みに早期に復旧してもらいたい」「林道、県道などの災害復旧工事はこのままいくと早くて8月になるのではないか。もっと早く手をつけてほしい」「簡易水道はいまだに仮復旧のまま、（水道の黒ホースが太陽に暖められ）暖かい水を飲んでる状態だ。早く本格的な工事を」などの訴えがありました。

県道、市道、林道の被害は大島区で多数発生していますが、安塚区や清里区でも大きな被害が出ています。安塚区細野では市道細野上達線の法面が地震でごっそり崩落（写真）、通行止めとなっています。清里区赤池の市道赤池上牧線では道路そのものが2メートル近く下がり、その長さは100メートルほどになっています。この復旧は数千万円かかるこのことでした。

総務常任委員会と建設企業常任委員会では、早急に調査結果をまとめ、関係機関に働きかけていくことが求められています。

## 地域事業費制度、責任ある発言を

総務常任委員会が23日開催されました。テーマは地域事業費制度の見直し問題。市の地域協議会での説明と審議の概要について総合政策部長から報告があり、質疑を行いました。

地域事業費制度は、合併協議会において、合併するしないに大きな影響を与えた重要問題です。市議会でも地域協議会でも慎重、丁寧な議論が必要です。

## シリーズ 上越市内の橋

第66回

## 正善寺湖橋

「正善寺湖橋」と書いて「しょうぜんじこぼし」と読みます。関川水系正善寺川に建設された県営の多目的ダムが正善寺ダム。このダムでせきとめられた水がたまって正善寺湖ができました。正善寺湖橋はこの湖にかかったアーチ橋です。



落間のアジサイロードが有名ですが、ダムをぐるりとまわって散策できる道路は7キロメートルほどあり、たくさんの野の花を観ることが出来ます。橋の長さは約19メートル。ダムの竣工式は1984年（昭和59年）12月。この橋の竣工はその前年の11月です。

私は、「各地域協議会との意見交換記録」に記載されている事例をあげながら、地域協議会に対する説明では、①土地開発公社問題などで事実と違う説明をしている、②議会での質問が少なく、市の方針に異論が少ないような誤解を与える発言をしているなどと厳しく批判、今後は行政の継続性を重視して責任ある発言をするよう求めました。また、市の新たな方針案では、全市的な優先度の設定を提起していますが、その検討状況を示せとせまりました。



私は、「各地域協議会との意見交換記録」に記載されている事例をあげながら、地域協議会に対する説明では、①土地開発公社問題などで事実と違う説明をしている、②議会での質問が少なく、市の方針に異論が少ないような誤解を与える発言をしているなどと厳しく批判、今後は行政の継続性を重視して責任ある発言をするよう求めました。また、市の新たな方針案では、全市的な優先度の設定を提起していますが、その検討状況を示せとせまりました。

# 春よ来い 第一五五回 スマイルカフェ

今年になって、上越市吉川区に喫茶店ができました。区内にはこれまで、喫茶店はひとつしかありませんでした。新しい喫茶店は、ひと月に一回くらいペースで開かれる小さな、小さな喫茶店。でもね、その喫茶店がいま大評判なのです。

喫茶店の名前は「スマイルカフェ」、日本語に直訳すると「笑顔の喫茶店」といったところでしょうか。場所は、なんと新潟県立吉川高等特別支援学校の三階です。喫茶店を開いているのは一五人の一年生。そんなことを校長先生が許可するわけがないでしょうですって。心配ご無用、校長先生は喫茶店で案内係をされていますから。

五月二六日、この日は二回目の「営業日」でした。開店時間は午前一〇時から一時半まで。私は一〇時半頃、学校へ向かいました。校門のそばまで行ったら、おしゃべりした素敵な女性のみなさんがニコニコしながら歩いてきます。みんな原之町の人たちです。私もこの人たちと一緒に校舎の中に入りました。

喫茶店のある三階まで上がっていくと、いやー、びっくりしました、喫茶店となっている作業室脇の廊下には順番待ちの人が大勢いたのです。イスに座って待っている時、お客さんの顔ぶれを見ると、歯医者さん、お菓子屋さん、呉服屋さん、料理屋さん、農家のお母さんなどの姿がありました。それから、階段の方から歩いてきたのは中学校の教頭先生です。いろんな人がこの喫茶店を楽しみにしているんですね。

待っている間、みんながおしゃべりを楽しみました。新しい学校のこと、小学校運動会のことなど、話声が聞こえてきます。時々、笑い声も出て、とても賑やかです。私は、隣に座ったお客さんから「私ね、『春よ来い』いつも楽しみにしているんです。細かいことも書いてあるけど、メモを取ってないの」と声をかけてもらいました。この方とは原稿書きの裏話や大島区藤尾のことなどをたっぷり話しました。

待ち時間は約一五分。「どうぞお入りください」と言われ、初めて「スマイルカフェ」に入りました。オレンジ色のバンドナとエプロンをつけた生徒が「いらっしやいませ」と声をかけてくれました。明るい店内には二〇人ほどのお客さんがいて、聞き覚えのある音楽が流れていました。「ジャラララ、ウオウ・ウオウ」カーペンターズの「イエスタデイ・ワンス・モア」です。とてもいい雰囲気でした。

「メニューはコーヒーと紅茶です。ご注文はどちらになさいますか」と言われ、私は迷わず紅茶を注文しました。もう何か月も紅茶を飲んでいなかったからです。紅茶が来るまで、店内の生徒の動きに目が行きました。お客さんを迎え、飲み物の注文をとる。実際にコーヒー、紅茶を入れて、テーブル席まで持って行く。帰るお客さんにお礼を言う。生徒たちは一生懸命仕事をしています。ふと、壁際の生徒を見たら、大きく息をしています。緊張している生徒もいました。

「スマイルカフェ」の取組は特別支援学校の生徒のみなさんの実習のひとつです。しっかりと挨拶することはもちろんのこと、お客さんに飲み物を美味しく飲んでほしい、楽しい時間を過ごしてもらえよう言葉遣いや接し方などを学んでいるのです。

この日、学校へ出かけ、「スマイルカフェ」に入った人たちは約八〇人。おそらく、この喫茶店が開いている時間帯、三階の作業室とその周辺の空間は「吉川区一番人口密度の高い空間」だったに違いありません。吉川高等特別支援学校は小さな学校ですが、一五人の生徒がいて、学ぶだけで、地域がこんなにも明るく賑やかになるなんてすごいことです。次回の「営業日」、あなたも出かけてみませんか。

## 高等特別支援学校の生徒も参加 吉川小学校運動会

21日、地元吉川小学校の運動会に参加してきました。開会式の時は曇り空でしたが、次第に雲がなくなって、まさに運動会日和となりました。児童、職員、保護者だけでなく、地域の人たちも大勢参加した運動会でした。

今回で吉川小学校の運動会は9回目となります。今回の運動会でみんなが目にしたのは、この春開校したばかりの県立吉川高等特別支援学校の1年生全員が参加して挨拶し、交流種目にも出たことです。1年生を代表して生徒の一人が、「吉川小学校のみなさん、地域のみなさん、私たちは吉川高等支援学校の生徒です。15名で活動しています。3年後に充実した人生を送れるように頑張っています。ご指導、よろしくお願ひします」と元気な声で挨拶（写真）すると、グラウンドの観客席などから大きな拍手が起きました。感動しましたね。

競技の方も白熱したものとなりました。徒競走、親子大玉送りなどいずれも全力を上げたレースとなり、カメラを持って写真を撮る人、



応援の声をあげる人がいて、ほんとうににぎやかでした。

## 満田誠二さんのメッセージも掲載

「平和と民主・社会進歩をめざす新潟県の会」がこのほど『新潟から日本と世界のあしたを』という小冊子を発刊しました。

この本は県内の各分野で活躍されている37人にたいするインタビューをまとめたもの。平田大六関川村長、元朝日酒造専務の嶋悌司さんなどが登場します。上越市在住の人で登場しているのは、柿崎区在住の満田誠二さんです。満田さんは新潟県原爆被害者の会の会長さんです。インタビューでは、核廃絶と平和の願いを熱く語っておられます。

この小冊子の価格は500円。ご希望の方は橋爪までご連絡ください。



【ヒメナツトウダイ】近くの杉林のなかで咲いていました。花は黄色です。